

Passport

2024 秋 Vol.52

男らしさ、女らしさにとらわれず、自分らしく暮らせる社会。お互いに認め合い、個性と能力を発揮できる佐賀市の実現をめざしましょう。



自治会等における

男女共同参画のためのシンポジウム



『ちょうどいい』

自分の居場所の見つけ方

多様な視点で考える

地域の防災力



第1回 佐賀SDGsアクション会議



・ CONTENTS ・

- 自治会等における男女共同参画のためのシンポジウム … P1
- 『ちょうどいい』 自分の居場所の見つけ方 …… P5
- 第1回 佐賀SDGsアクション会議 …………… P3
- 佐賀市男女共同参画推進協賛事業所紹介 …… P6
- 多様な視点で考える地域の防災力 …………… P4
- SDGs (子どもの居場所ってどんなところ?) … P7

自治会等における 男女共同参画のためのシンポジウム

■開催日：令和6年8月1日（木） ■会場：佐嘉神社記念館 ■主催：佐賀市自治会協議会、佐賀市

－未来の佐賀市の地域づくりを語る会－

佐賀市の女性自治会長の割合は全国平均よりも少ないものの近年は増加傾向にあり、自治会の加入率は全国平均よりも高いという強みがあります。そんな強みを活かし、未来の地域づくりについて語る会が開催されました。

第1部 講師によるミニ講義

“誰一人取り残さない” ジェンダー平等で多様性のある地域づくり

講師 萩原 なつ子さん（独立行政法人国立女性教育会館理事長）



1 エクイティ(Equity 公正・公平性)

- ・ 人権的側面のみならず人材確保にとって必要
- ・ 同質の人たちだけの時、課題が課題として認識されないことが多い
- ・ 男女格差が女性の課題だと見なされているうちは社会的・政治的課題になかなかならない

2 ジェンダード・イノベーション

研究開発、技術開発、ビジネスにおいて、生物学的性（セックス）や社会的性（ジェンダー）による格差とその他の要因（年齢、宗教、地域性等）の交差分析を行うことで、イノベーションを創出する概念

3 ジェンダー・ギャップ解消はなぜ必要か？

- ・ ジェンダー平等とは、身体的性の平等ではなく、**社会的な立場における平等**を意味する
- ・ その根底にあるものは、慣習、風習、宗教的な理由、個人の思想がある
- ・ このような社会的不平等をなくし、誰もが平等に活躍できる社会を築くために、ジェンダー・ギャップ解消が必要

4 日本のジェンダー課題

- ① 女性の相対的貧困率
- ② 男女の賃金格差 日本は30%、スウェーデンは3%のひらきがある
- ③ 国会議員や企業の管理職等、意思決定過程への参画
- ④ 家事・子育てなど無償労働時間の男女格差
共働き家庭が7割なのに、「主たる稼ぎ手は男性」「家事等は女性」という固定観念が存在
- ⑤ 根強い固定的な性別役割分担意識
- ⑥ 無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）

5 ジェンダー・ギャップはなぜ起こるのか？

- ・「男性」を標準にしている
- ・標準化されたシステムにおいては、個性は重視されない

6 無意識のバイアスやギャップはなぜ問題か？

人生の選択肢や可能性の剥奪につながる

例 「お父さんは他の家族よりおかずを一品多く」、「女は子どもを産んで一人前」、「女は大学に行く必要はない」、「女に政治は無理」、「男は一家の大黒柱」、「長男は後を継ぐものだ」、「男なんだから泣くな」



第2部 参加者によるワークショップ

「誰一人取り残さない ジェンダー平等の地域づくりに必要なこと、女性や若者が参画しやすくするためにはどうしたらよいか」について、まず個人で考え、グループ討議。その後、他のグループを回って意見交換が行われました。

【グループから 出されたキーワード】

「若者が参加できる自治会運営」、「意見を出しやすい雰囲気を作る」、「若者は自治会について知らないので子どもや若者に広めていく」、「思いやり・支え合いの心をもつ」、「家庭の後押し」、「女性に責任ある立場に就いてもらう」、「会議の時間短縮」、「若者や女性に発言を促す声掛け」、「女性や若者の意見を否定しない」

参加者の感想

Aさん
(男性)

女性に自治会は無理と刷り込まれているのか、総会には男性しか集まらない。今日の会の内容を自治会長会で伝達し、女性自治会長のなり手が増えるように地域住民の意識改革に尽力したい。

Bさん
(女性)

男性もジェンダー平等について理解しようという気持ちはあるように思うが、実際はまだまだ変わっていない。このことについて男性の意見を聞きたかった。どのようにしたらお互いに理解できるのか、どのような理解方法があるのか知りたい。

Cさん
(女性)

10年前は「自治会長に女はダメ」と言われていた。今日は自治会長同士で話せたことが良かった。輪番で自治会長になったが自治会長になってやりたいと思っていたことを実行でき、少しずつ活動内容を変えていくことができる。



感想

佐賀市自治会協議会と佐賀市が初めて主催し、100名以上で男女共同参画について考える意義深い会でした。女性の自治会長が少ないので増やしたい、物事を決定する時に女性がいないことが問題であるという危機意識をもって参加された自治会長さん方が、ジェンダー平等の地域づくりについてのワークショップで真剣に意見を交わされていたのが印象的でした。この会を契機に女性の自治会長が増え、各地域での自治会活動が充実・発展していくことを願っています。(編集委員 椛島陽一郎)

第1回 佐賀SDGsアクション会議 持続可能な会社のための 女性が活躍する組織を創造する!

開催日 ▶ 令和6年7月3日(水)
会場 ▶ 佐賀市立図書館2階 多目的ホール
主催 ▶ 佐賀大学全学教育機構、佐賀市、
リコージャパン(株) 佐賀支社、
佐賀SDGs官民連携円卓フォーラム

『持続可能な会社のため、女性が活躍する組織を創造する!』をテーマに、ジェンダー平等について取り上げた佐賀SDGsアクション会議が開催されました。



第1部 話題提供

演題 **なぜ、世界経済フォーラムが ジェンダーを重視するのか**

講師 ▶ アバンセ館長 **田口 香津子** さん

SDGsの中でも重要なテーマの一つであるジェンダー平等の動きが経済界でも活発になっている背景をお話いただきました。

日本は急速な人口減少の局面を迎え、労働力不足が懸念されている中で、企業の多様性の確保と女性の活躍を進めることが優れた経営パフォーマンスに繋がるカギとなります。しかし、世界経済フォーラムが毎年発表している「ジェンダーギャップ指数」の2024年の日本の順位は146か国中118位と低く、特に「政治」と「経済」の値が低いと評価されました。家族や人生の在り方が変わってきている現代で、男女関係なく全ての人が仕事でも家庭でも活躍できる社会の実現のために、昭和時代の名残のある政策・制度を「令和モデル」へ見直していく必要があるとお話いただきました。

※令和モデル：全ての人が希望に応じて、家庭でも仕事でも活躍できる社会（男女共同参画白書より）

第2部 各企業・ 団体の発表

続いて、佐賀市とリコージャパン(株)の2名の女性部長から役職者としての発表をしていただきました。

佐賀市環境部
部長

宮崎 圭子 さん



佐賀市では令和になり女性管理・監督職の割合が徐々に増加し、現在24.3%となっています。ただ、部長職につく女性は約16%とまだまだ少ないのが現状です。

管理職になると今までとは違ったプレッシャーを感じることもありますが、女性の管理職はまだまだ少ないため覚えられやすいというプラスの側面もあります。

女性管理職が増えることで、若い世代の人たちにも自分が管理職になるイメージを持ってもらいたいです。

男性社員の数が多い会社ですが、女性・シニア・グローバル人材など多様な人材活躍の場を増やすために全社的に取り組んでいます。会社と社員は貢献と支援で互いに支えあう関係という考えのもと、働き続け成長できる社員が増えるような仕組みづくりがあります。

女性登用も多く進んでいますが、女性優遇ではなく平等促進という意味合いが強く、みんなが活躍できる会社づくりを進めています。



RICOH

リコージャパン(株)
営業部部長

田町 幸子 さん

お三方の結びのメッセージとして、女性の方・特別な人でなくてもチャンスがあればチャレンジしてほしい、女性だけが頑張るのではなく男女関係なく協力することが必要だとおっしゃっていました。

感想

お三方から伝えられた「私でもなれたからみんなもなれるよ!」というメッセージが強く印象に残りました。管理職にチャレンジすることにイメージが湧かない女性もまだまだ多いと思いますが、自分がロールモデルになることで次の世代に繋がっていくのではないかと思います。
(編集委員 草野圭織)

多様な視点で考える 地域の防災力

講話と朗読劇でわかりやすく学ぶ男女共同参画講座

開催日 ▶ 令和6年7月10日(水)

会場 ▶ 中川副公民館

中川副公民館主催、大人の教養講座「早都栄塾^{はやつえ}」第4回講座として、今年の1月の「能登半島地震」などでさらに関心が高まってきている「防災」について学びました。

講話

男女共同参画の視点で考える地域の防災力

講師 ▶ 佐賀市男女共同参画課

災害は避けて通れないもの、災害時の被害を最小限に抑えるには地域の防災力を高めることが重要。発災後の避難所の運営や衛生管理などは「人の手で変えられる！」。

普段から地域住民で支えあう関係をどう築いていったらいいの？などを男女の生物学的な性差への対応（生理用品・妊産婦・性暴力などへの対応など）・社会的な性差への対応（性別による役割分担を見直す）を踏まえ、具体的な例を示しながらわかりやすく解説しました。

朗読劇

テーマ

『防災』 佐賀市男女共同参画ネットワーク“結い”

佐賀市男女共同参画ネットワーク“結い”のメンバーが年代も様々な女性3人を演じ、講座参加者も加わって、にぎやかに和気あいあいと劇が演じられました。



気になる避難所の「トイレ問題」については、自治体でも簡易トイレを含め防災用品の備蓄はあるが、まずは自分で準備（自助）が原則。ペットとの同伴避難など各自考えておくべき問題について、多くの情報を紹介していただきました。

その中で、防災の役割分担について、「食事の準備は女性」、「力仕事は男性」等の思い込みをなくし、自治会活動で集まった時、近所の小さい集まりでもよいから少しずつ話し合う機会を持つことから始めては？とのことでした。

感想

日本の農村社会では古くから労働や災害の際、相互扶助・助け合いの制度があって、それを「結い^{ゆい}」と呼びます。まさにこの佐賀市男女共同参画ネットワーク“結い”はそれを体現されている素晴らしい活動だと感じました。

朗読劇では、実際に防災用品のそろえ方や使い方などをわかりやすく紹介されていて、参加者も大変満足のような様子でした。また、「男女共同参画」というと、なんとなくしり込みしてしまう人も今回のような地域の「公民館講座」のなかで気負うことなく学べるのも大変良いと感じました。「家におってもじっとするだけやもんね。来てよかった。」との意見もいただきました。
(編集委員 高橋朋子)

令和5年度 佐賀県男女共同参画フォーラム

『ちょうどいい』自分の居場所の見つけ方

講師：ジェーン・スーさん

開催日 ▶ 令和6年2月25日（日）

会場 ▶ ドゥイング三日月

主催 ▶ 佐賀県立男女共同参画センター

協力 ▶ 佐賀市、小城市



読者の皆さんは、「女性だから／男性だから」、「〇〇だから」と誰かに言われて、モヤモヤを感じたことはありませんか？

コラムニストであり、ラジオパーソナリティのジェーン・スーさんから、「らしさ」ととらわれない、自分にとって「ちょうどいい」居場所の見つけ方についてご講演いただきました。

◆「居場所」の定義

心を休めたり、活躍できる場所
私らしくあっても疎外感を持たずに済む場所

快適＝安心・安全・受容とセット

- 必要とされている存在だと思えること
- 誰かの役に立っている実感があること

◆「自信」は「自己受容」から

「～が心配です」、「～に悩んでいます」、「～で不安です」といった自信がない状態とは、いつの間にか社会に刷り込まれた性別と役割が紐付けられた「普通」に縛られている状態（ある程度の幸せが約束される、と考えられていた旧来型のひな形）ではないか？

- 自分の幸せの形を他者に決めさせない
- 他者の幸せを勝手に決めつけない



うまくいったりいかなかったりするけど、それでも私は大丈夫！と思える

◆「アップデート」の重要性 「社会と自分の変化に気づく」

社会の変化 —— 右肩上がりの経済の終焉やテクノロジーの変化

- 未来を怖がらない
- できなくても気にしない
- 『普通』に惑わされない
- 失敗しても大丈夫
- 変わることを恐れない

先に決まっている正解はない。
自分が選んだものを、自分の意思と行動で正解にしていくしかない。

感想

今回の講演は、会場に集まっている全ての人々への、温かく手厳しいエールだと思えた。ギョッとする表現が飛び出すパワフルな弾丸トークなのに、圧迫感がない。歯に衣着せないきっぱりした断言なのに、押し付けがましくない…。笑いが散りばめられた小気味良いリズムで、真っ直ぐ飛んでくる言葉を、私は時間を忘れて書き留め続けた。

さて私は、ちょうどいい自分の居場所づくりに向けて、何から取り掛かるのか？

(編集委員 友安賀代子)

- 佐賀市男女共同参画推進 - 協賛事業所紹介

市とともに男女共同参画の推進に積極的に取り組んでいただいている事業所を紹介します。(五十音順)

社会福祉法人 旭福祉会 (長瀬町) 社会福祉業



当法人は1979年設立の社会福祉法人で、認定こども園、小規模保育園、障害児通所支援事業所を運営しています。女性が多く活躍しており、子育てや介護をしながら働いている職員もたくさんいます。時間単位の有給休暇やバースデー休暇、育児・介護休業制度を取り入れ、働きやすい環境を整えています。地域に根差し、職員が「きらきら・ぐんぐん・にこにこ」と働ける職場をめざしています。

学校法人佐賀学園 佐賀学園高等学校

(駅前中央)

教育、学習支援業



本校は、昭和33(1958)年に「産業界の第一線に貢献する人材の育成」を建学の精神に創立され、いかなる時流においても生き抜く力を身につけさせるべく日々の教育を実践しております。

本校では、男女共同参画社会の実現に向けて、ワーク・ライフ・バランスの視点に立った働き方改革を推進しています。

一般社団法人 佐賀市観光協会 (白山) 生活関連サービス業



当協会は、昭和36年の設立以来、「佐賀市の観光事業の振興を図り、文化厚生の向上に資し、産業の発展に寄与する。」ことを目的に、会員の皆さまとともに各種事業を行っています。

産休・育休・介護休暇等の取得を推進し、有給休暇も1時間単位で取れる等、職員が働きやすい職場作りに取り組んでいます。

バーチャレクス九州 株式会社

(駅前中央)

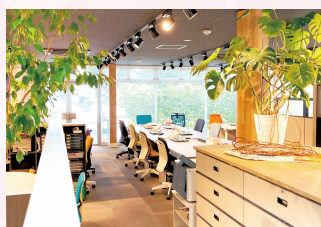
その他事業サービス業



弊社は2002年に創設され、コールセンターを中心としたアウトソーシング事業を展開しています。

平等な人材採用、残業時間の削減、半休の導入等、社員の声を取り入れながら、働きやすい職場を常にめざし、新しい制度の検討、改善、導入を行っています。これからも安心、安全でゆとりをもって働ける職場をめざします。

原田株式会社 (新中町) 卸売・小売業



弊社は家庭紙や弁当容器、包装資材、オフィス家具、OA機器等を販売しており、お客様の希望に寄り添ったオフィス等の空間提案や内装仕上工事なども行います。オフィス内は、観葉植物やアロマ、コーヒー、静かな音楽が流れ、誕生日休暇や産休育休、パパ育休、時間休等福利厚生も充実しており働きやすい環境づくりに取り組んでいます。

男女共同参画推進 協賛事業所 募集中!

事業所での男女共同参画の推進は、子育て環境の整備や仕事と家庭生活の両立支援など、事業所のイメージアップに繋がります。

協賛事業所への登録を
お待ちしております!

担当：佐賀市 男女共同参画課
電話：0952-40-7014
FAX：0952-29-2095

申込用紙は佐賀市ホームページからダウンロードできます。
<https://www.city.saga.lg.jp/main/3196.html>

詳しくは
佐賀市HPを
ご覧ください





「子どもの居場所」って どんなところ？



「子どもの居場所」とは、子どもたちにとって、学校でも家でもない子ども自身がほっとできる居場所のことです。このような居場所が求められている背景には、子どもを取り巻く貧困問題があると言われています。ひとり親家庭や家事・育児が母親に大きく依存している家庭など、家庭の抱える困難が複雑化し、地域とのつながりも希薄になる中、子どもが孤立し心の貧困にもつながっている、その現状を解決しようと子どもが安心して過ごせる居場所づくりへの取組が全国的に広がってきています。

佐賀市では平成29年度から3年間、子どもの居場所づくりのモデル事業として循誘子どもの居場所づくり実行委員会を中心に「遊び場ゆうゆう」「放課後ゆうゆう」が開設されました。そこには校区内の小中学生や保護者は誰でも参加でき、外遊びや室内遊び、食事の提供、季節のイベントなどが行われています。地域の方々の物心両面の支援・温かいまなざしに支えられ、今年で8年目を迎えています。年齢や性別、国籍等に関係なく参加でき、運営も地域の方々に加え、市内の高校生・大学生、ゆうゆうの卒業生も参加し子ども達を支えています。今回の取材から、多様性が認められる環境の中で、子どもが自分らしくのびのびと過ごすことができ、地域の方々の温かな心のつながりも生まれ、子育て中の親にとっても「笑顔になれるかけがえのない心の居場所」になっていることを実感できました。



参考

日本の子どもの貧困率は、1980年代から上昇傾向にあり、今日では7人に1人の子どもが貧困状態にあるとされています。この背景には、女性の社会進出が求められている近年でもまだ男性中心の雇用慣行が残っており、それが男女の経済格差を引き起こしていること、家事・育児に責任を負うことについて経済的には父親、家事・育児は母親に期待されていること、これらジェンダー不平等の状況が子どもの貧困ともつながっていると考えられます。

このような状況の中、子どもの権利を守り、誰一人取り残さず、抜け落ちることのない支援を行い「こどもまんなか」の居場所づくりの実現に向け、「こどもの居場所づくりに関する指針」(令和5年：こども家庭庁)が策定されました。その中で子どもの居場所づくりのキーワード、子どもにとって「居たい・行きたい・やってみたい」という3つの視点が示されています。

佐賀市ではこの3つの視点を大切に、様々な地域で「子どもの居場所」が開設され、ハンドブックも作成されています。「佐賀市子どもの居場所」の詳細は、以下のURLまたはQRコードから確認できます。興味・関心のある方は、検索されてみてはいかがでしょうか。



佐賀市HP「子どもの居場所」
<https://www.city.saga.lg.jp/main/84905.html>

(編集委員 中村美枝子)

編集後記

令和6年は能登半島地震から始まり、その後も台風やゲリラ豪雨などが発生しました。地域の防災力の強化は緊急の課題なのですが、災害時などの非常時にこそジェンダーの課題は顕在化、深刻化するともいわれています。従って誰一人取り残さない防災力の強化のためには、常日頃からの取り組みはとても重要です。

今号はその平常時の取り組みのヒントがいっぱい詰まったものになりました。ご一読ください。

(編集委員 矢ヶ部ひとみ)

編集委員

(五十音順)

椛島陽一郎・草野圭織・高橋朋子・
友安賀代子・中村美枝子・矢ヶ部ひとみ

※編集委員は市民の方々にご協力いただいています。

新メンバーに
なりました!

発行・お問い合わせ

佐賀市男女共同参画課

TEL 0952-40-7014

E-mail danjo@city.saga.lg.jp

HP <https://www.city.saga.lg.jp/main/438.html>



過去の
「ぼすぼーと」が
webで閲覧
できます!